# 国際シンポジウム「文化の越境と変容：文学と芸術が脱領域化するとき」

金沢大学人間社会研究域附属グローバル文化・社会研究センター 主催
グルノーブル・アルプス大学 SCALES-Lit (UGA/ANR-15-IDEX-02) 協賛

文学や芸術作品が異なる文化圏で異なる文脈において受容されるとき、何が起きるのか。経済的な意味でのグローバル化が標準化を基本とするのに対して、文化は越境に際して変容する。アメリカの国民詩人ホイットマンはソビエト連邦でどのように読まれたか。日本の武道はメキシコ映画でどのように描かれたか。第一次大戦期のロンドンで日本人劇作家は何をもたらしたか。フランス人の反戦のレトリックを日本の戦後作家はどのように援用したか。本シンポジウムは４つの問いを通じて、文学や芸術が生まれた土地からいかに離れていくかを検証し、グローバル時代の人文知の実相を考察する。

**2025 年 7 月 23 日（水）**13:00-16:30
金沢大学角間キャンパス人間社会第 1 講義棟 301 講義室

使用言語：英語、日本語

スケジュール

13:00 杉山欣也（金沢大学グローバル文化・社会研究センター越境文化研究部門長）
開会の挨拶

13:10 Delphine Rumeau (グルノーブル大学教授)
「国民詩人がグローバルになるとき」“When national poets become global”

14:00 Eduardo González de la Fuente (金沢大学グローバル文化・社会研究センター講師)
「1950 年代・1960 年代のメキシコ映画における日本武道の記号論的参入」“The semiotic entrée of Japanese martial arts in Mexican cinema during the 1950s-1960s”

14:40 休憩

14:50 鈴木暁世（大阪大学准教授）
「詩・ダンス・マリオネット：第一次世界大戦下ロンドンにおける日欧芸術の実験的交流」

15:30 岩津航（金沢大学人間社会研究域教授、グローバル文化・社会研究センター長）
「戦争に抵抗するためのレトリック：ロマン・ロランを読む加藤周一」

16:10 質疑応答

16:30 閉会の挨拶